

笠北だより

平成31年2月1日 第37号

【めざす学校像】

- 児童・職員・保護者がともに成長する学校
- 互いの違いや個性を尊重し、力を合わせて成長する学校
- 自他の間違いや失敗を認め合い、成長へと結びつける学校

みどり市いじめ防止子ども会議

1月25日（金）に笠懸公民館で「いじめ防止子ども会議」が開催されました。市内5校の中学校と8校の小学校の代表が集まって、いじめをなくすための活動について話し合いました。本校からは6年生の荒木悠空君と5年生の森壮太君が参加し、積極的に自分の意見を伝えていました。自分たちでできること、みんなで取り組むことを一生懸命に考えてくれました。市長さんからの励ましの言葉、教育長さんからの賞賛の言葉がありました。話し合いをリードしてくれた中学生は



笠北小の卒業生で、本校の取組がしっかりと根付いていると感じさせる立派な先輩でした。このたよりの裏面に本校の実践を紹介したページを載せておきました。



児童玄関前に交通安全標語

今年も5年生が考えてくれた”交通安全標語”が子どもたちを見守っています。市のコンクールで優秀賞の2点です。

「全員が ルールを守れば 事故は0(ゼロ)」石内沙菜さん
「交通ルール みんなで守れば 明るい道路」高木茜さん
笠北小のみなさんがルールを守って交通安全に努めてほしいです。



5年生総合あすなる「米新聞コンクール」



5年生の米作りもいよいよ最終段階です。愛情を込めてお米を作ったので、今回の新聞づくりにかける意気込みもすごいです。文字もびっしり、絵も豊富、色使いも凝っていてとても楽しく読める新聞ができあがりました。



おもひろ魚煮・梅杓ち魚煮

～桃李(とうり)もの言わざれど下(した)自(おの)ずから蹊(けい)を成(な)す～

〔名言・格言集第35弾〕桃李成蹊(とうりせいけい)とも言います。意味は、桃やすももは何も言わないが、実がおいしいので人が集まり、その下には自然に道ができる。りっぱな人のもとには、黙っていても自然に人が慕い集まることのたとえです。中国の前漢の時代、悲運の武将といわれた「李広(りこう)」の徳を称えた言葉です。俳優の松坂桃李は父親がこの言葉の意味するところを願って名前をつけたそうです。安倍晋三首相の母校である成蹊大学の名前の由来も、この言葉です。

やさしさにあふれた学校を目指して

みどり市立笠懸北小学校

1. 私たちの取組

(1) 概要

笠懸北小学校では、いじめのない学校づくりを目指し、毎年行ってきた「挨拶運動」を充実させると共に、いじめ防止の意識を高めるために「いじめ防止日めぐり標語」の募集を行った。また、匿ったり悩んだりしている友達を放っておかず、やさしく声をかけられる児童を増やすため、「やさしさふやし隊になるう」という呼びかけを行い、各学級でやさしい声のかけ方を練習した。

(2) 取組内容

【挨拶運動の充実】

○「挨拶モデル」の提案
「良い挨拶」とは何かを計画委員会で話し合い、3つのポイントを提案した。

①元氣よくはっきりと

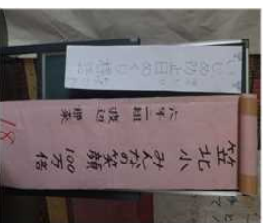
②笑顔で

③相手と目を合わせて

児童集会ではこの「挨拶モデル」を計画委員が実践し、全校児童で練習を行った。また、提示物を作成して児童玄関前に掲示し、いつでも確認できるようにした。

○「挨拶の木」

「挨拶モデル」で示した3つのポイントに気がつけて、良い挨拶ができている児童に葉型のカードをプレゼントした。このカードをもらった児童は、自分の名前を書いて児童玄関前の「挨拶の木」に貼る。良い挨拶で木を育てよう全校に呼びかけを行った。



【「いじめ防止日めぐり標語」の作成】

全校児童に「いじめを無くそう」とする気持ちを持ってもらうために、標語の募集を行った。1～6年生までのすべての学年から標語が集まり、その中から計画委員会が31作品を選んで日めぐり標語として掲示した。
標語は児童玄関前に飾り、室下校の際に多くの児童の目に触れるようにしている。



【「やさしさふやし隊」になるう】

児童玄関のいじめ防止テーマである、「仲間が困っていることに気がきき、支え合うために私たちにできること」に基づき、計画委員会で学校の実際について話し合った。その中で、「どうしたの？と声をかけても反応がない」

「その先の言葉が続かない」という意見が出た。

そこで、身近で友達を悩んだり困ったりしているとき、声をかけることのできる「やさしさふやし隊」になってほしいと児童集会で提案した。

まず、各学級で学活の時間に、学級の中に一人ぼっちになっている子はいないか、また、どんなことで悩んでいるかを話し合った。児童からは「仲間はずれ、悪口、無視、暴力、けんか」など様々な課題が出された。次に、シチュエーションごとにペアやグループなどで声かけの練習をし、最後にかけて慣れて難しかった言葉をホスターにまどめた。



学習「やさしさふやし隊になるう」



「やさしさふやし隊」認定証の授与



<ホスターに書かれた言葉>

○大丈夫？いっしょにいるよ。

○相談のるよ。

○ぼくと一緒に先生に言に行こうか？

○元氣出して、一緒に遊びに行こうよ。

など...

2. 取組のまとめ

(1) 取組の成果

挨拶運動の充実を通して、相手の目を具て明るく元気に挨拶をする児童が増え、学校全体に明るい雰囲気が生まれた。また、「やさしさふやし隊になるう」では、学級でいじめの実態について話し合ったことで、匿っている子が身近にいるのだという意識が生まれた。やさしい言葉かけを練習したことで、友達に率先して声をかけようという意欲が生まれた。

(2) 今後の課題
困っている子を放っておかずに声をかけようとする意識を継続させたい。どんな声かけができたか、集会や放送などで全校で共有する活動などを工夫したい。

